

有明高校廃校の感想を問う

やむを得ない判断であり残念



小野 光夫 議員

本町唯一の有明高校は永年地域の教育文化の振興に多大な功績と人材を社会に送り込んできた。廃校の決定は残念である。町長の感想を問う。

複雑な思いで一抔の寂しさを感じる

町長

大崎町公立高校在り方検討委員会の答申を県教育長に提出し、本年9月募集停止が発表され非常に残念である。県教育委員会もやむを得ない判断であったと推察する。

跡地利用について県とのヒヤリングは

小野議員

12月6日の報道で高校跡地に大隅地域のスポーツ合宿拠点施設の新設が明らかになった。県政策調整課とのヒヤリングがあったと思うが、いつあり、どのような要望をしたか。

ヒヤリングは未定である

町長

伊藤知事のマニユフェストに大隅地域におけるスポーツ合宿の拠点となる施設整備をする方針が掲げられたが、まだ県とのヒヤリングは無い。今後施設の種類や規模等、具体的な事柄は調整があると思う。

要望に沿った方向性が示されたか

小野議員

現在も大学生のあすばる大崎を宿泊とした合宿があり、一般旅行者が宿泊出来ない事態がある。スタジアム構想も頓挫している。総体的にどのような施設が必要なのか。

陸上競技場を中心にした整備を望む

町長

交流人口を増やすスポーツ施設が必要で、そのためにも陸上競技場を中心とした施設整備や宿泊施設を望むところである。

不足が心配されている産科病院の現状は

小野議員

地域医療の崩壊が聞かれ大隅半島におい

ても小児科・産科病院の不足が危惧されている。少子化の中ではあるが大隅半島全域で何ヶ所あるか現状を聞く。

4つの医療機関である

町長

医師の高齢化等による産科の休廃止により近年減少し、大隅半島では寿レディースクリニク・王産婦人科病院・内村産婦人科・そして合併症妊娠やハイリスク分娩等に限った対応のみを行う県民健康プラザ鹿屋医療センターの4つの医療機関である。

今後の対応は

小野議員

本町は子供を育てる環境づくりのため、いろんな支援等を行っている。一方、今後産科病院が少なくなることが予想されるが、政策的なものはあるか。

国・県レベルで解決に努力する

町長

危機的な状況を打開するため、国・都道府県・市町村が一体となり産科・婦人科医師の増加、又地域に応じた周産期医療の集約化、報酬改定、女性医師の就労環境改善といった喫緊の課題解決に努力していく。

ペット(PET)検査診療指定病院の拡大について

小野議員

近年「がん」で亡くなる人が多い。このがん細胞を見つけるのがペット検査である。最近検査をされる人が増えてきているが、本町は病院との取り決めをしていないために、窓口全額負担をしなければならぬ。助成についても鹿屋市・垂水市5万円、曾於市・志布志市・東串良町2万円、本町1万5千円であり県内で一番低い。

十分検討し善処する

町長

前向きに取り組む必要があると思う。

国保の被保険者が健康診断を受診した場合合人間ドック・脳ドック・ペット検査等高額になるので、一人一年一回あたり1万5千円を上限に補助している。県内の市町村においては事前に病院との契約を取り交わしているところもあるが、本町は契約していない。助成額については、一考する必要がある。

その他の質問

- 原子力発電について町長の今後の対応について
- 太陽光発電システムの実績と今後の対応について
- メガソーラー施設の本町立地の見通しとそのメリットについて